様式 C-7-2

# 自己評価報告書

平成２３年　４月２１日現在

機関番号：10102
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2008～2012
課題番号：20520103
研究課題名（和文）環北太平洋北方圏の先住民文化について、その現代的意義をモチーフとした空間造形
研究課題名（英文）Installation “To Sense an Indication･･･Idea of Forest in the North”-From Investigations into the Native Culture to the Extended Concept of Sculpture-
研究代表者
坂巻　正美（SAKAMAKI MASAMI）
北海道教育大学・教育学部・准教授
研究者番号：60292067

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：芸術学・芸術一般
キーワード：現代美術・彫刻的空間造形・美術論・先住民文化・人類学

１．研究計画の概要

(1)環北太平洋北方圏の先住民文化について、実地調査及び博物館収蔵資料や人類学等の文献調査を行い、先住民文化の現代的意義を探り、それをモチーフとした空間造形作品の構想と制作発表を行う。

①北米北西海岸及びロシア極東地域における先住民の歴史や文化に関する実地調査及び作品素材の収集。
②北海道や東北地方の民俗誌とロシア極東地域及び北米北西海岸先住民の歴史や文化との比較から作品構想。
③環北太平洋の北方地域に弧を描いて結び連なる多数の先住民文化間で深く関連し合う思想とその感性を探る作品構想。

(2)自然との関係において、破壊的な仕組みを抱える現代社会の状況に対抗するイメージを創出するために、北方圏の先住民文化を探訪し、学ぶことで、空間造形作品の創作活動を進めていく。

(3)(1)と(2)を踏まえた創作の構想及び発表を行うことで、北方地域の先住民に古くから伝わる思想と感性を現代に活用する方法を作品表現として再生することを試みる。

２．研究の進捗状況

(1)ロシア極東地域における実地調査

①2008 年の 9 月、沿海州・アムール川上流部の支流であるビキン川流域を遡上し、先住民ウデヘの集落であるクラスヌイヤール村を訪ね、そこを起点に木造の小舟で上流部の狩猟現場をめぐる実地調査を行う。
②2010 年の 3 月、ハバロフスク州ナイヒン村からアムール川下流域の北西方向に向かう氷結した支流の中州地帯にある土小屋に滞在し、ナナイの氷下漁を実地体験や聞き取り、撮影記録等の調査を行う。
③2010 年の 8 月、北サハリンの東海岸にて、ウィルタのトナカイ遊牧の現場を実地体験や聞き取り、撮影記録等の調査を行う。

(2)本邦、北海道及び東北地方における実地調査を継続的に行っている。

①道内各地に残る古いアイヌ文化の痕跡を実地調査すると同時に、古老を訪ねる等の聞き取り及び造形素材の収集を行う。
②東北地方のマタギ文化や山岳信仰（早池峰山伏神楽・権現舞）とクマ信仰の関連について聞き取り、及び造形素材の収集を行う。

(3)本研究課題の作品構想につながる研究経過発表として、北海道大学等にて作品展示を行うなど、その他、美術教育学会や北方民族文化シンポジウムへの招待講演等について、本研究の構想や経過発表を行う。

(4)上記(1)～(3)のような研究の進捗状況は、人類学研究資料から与えられる様々な知識と実地調査により、伝統的な美術表現における彫刻の概念を拡張していく作業であり、狩猟採集を中心としてきた先住民文化からの学びを作品構想と重ねていく経過発表へと繋がっている。

３．現在までの達成度

③やや遅れている。

（理由）
ロシア極東地域における宿泊施設も無い辺境地への旅行手配に要する時間や調査旅費が、当初の見込みを大きく上回ってしまったため。

４．今後の研究の推進方策

(1)この研究は、本報告書「１．研究計画の概要」の項で述べたとおり、これまでの人類学研究の成果を学び、実地に調査確認することで、美術領域の彫刻概念を拡張していく新たな表現活動の推進が、もう一つの需要な目的であることを確認する。

(2)本研究期間の前半では、前項「３．現在までの達成度」で述べたとおりの理由から、残りの研究期間について若干の計画調整を行う。

①応募当初の（平成 23 年度の計画）で示していた本年度にこれまでの３年間の実地調査研究の成果をまとめる目的で作品発表を試みる予定だが、実地調査不十分となることが予想されるため、研究の最終年度である来年後半へと成果発表の展覧会を延期する。

②応募当初の（平成 24 年度の計画）で示していた「フィールドワークの記録や作品の写真を主体とする作品集を作成し、作品集を鑑賞対象とした展示発表を行う。」研究最終年度の成果発表と上記①を研究最終年度で同時に行う計画調整を行う。

５．　代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１件）

1.坂巻正美、作品「けはいをきくこと・・・北方圏における森の思想」先住民文化探訪から彫刻概念の拡張へ、『第 25 回北方民族文化シンポジウム』報告書 現代社会と先住民文化 ―観光、芸術から考える―②、査読無、2011、43-48

〔学会発表〕（計５件）

1.坂巻正美、旧札幌農学校第二能條牧舎サイロでの展示プロジェクト「けはいをきくこと・・・北方圏における森の思想」（作品シリーズ２点）、北海道大学・大学院メディア・コミュニケーション研究院 公開シンポジウム「地域発・草の根文化の時代」、2010.10.16～11.2、北海道大学

2. 坂巻正美、作品「けはいをきくこと・・・北方圏における森の思想」先住民文化探訪から彫刻概念の拡張へ、第 25 回北方民族文化シンポジウム、2010.10.16～17、オホーツク・文化交流センター（北海道網走市）

3. 坂巻正美、北方圏における森の思想Ⅲ、大学美術教育学会（東京大会）、2010.9.19～20、武蔵野美術大学

4.坂巻正美、北方圏の森の思想Ⅱ（フィールドワークによる空間造形）、大学美術教育学会（愛知大会）、2009.9.26～27、国際デザインセンター

5. 坂巻正美、北方圏の森の思想（フィールドワークによる空間造形）、大学美術教育学会（高知大会）、2008.11.2～3、高知大学